

第38課 準備のための聖書日課

12月12日(月) ルカ11:27-28 幸いな人

27 イエスがこれらのことを話しておられると、ある女が群衆の中から声高らかに言った。「なんと幸いなことでしょう、あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は。」28 しかし、イエスは言われた。「むしろ、幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である。」

この女性は分かりやすく福音を語られるイエス様を見て、思わず「この方の(肉親の)お母様は何と幸いでしょう。」と声高く言ったのでしょう。イエス様は「むしろ、幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である。」と返されました。私たちは今自由に礼拝を守り、聖書を読み、お祈りをし、行動することが許されていますから本当に幸いなものです。これらのことが許されず迫害を受けている人々のために祈りつつ、この特権を大切にしたいです。

12月13日(火) ルカ12:35-40 人の子を待つ幸い

35 「腰に帯を締め、ともし火をともしていなさい。36 主人が婚宴から帰って来て戸をたたくとき、すぐに開けようとしている人のようにしていなさい。37 主人が帰って来たとき、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。はっきり言うておくが、主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる。38 主人が真夜中に帰っても、夜明けに帰っても、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。39 このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒がいつやって来るかを知っていたら、自分の家に押し入らせはしないだろう。40 あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」

昔 夫が朝出社して(今日は定時帰りで朝まで帰らない。)と思い、疲れもあってか朝からソファでうとうととしてしまった時に、突然夫が忘れ物をとりに帰って来てドギマギしたのを思い出します(苦笑)イエス様がおいでになる時に備えて、礼拝や静止の時は勿論、寝ていても、起きていても、食べている時も、仕事の時も、家事や育児、介護をしている時も、いつでも心の目を開いてイエス様を見上げて歩めます様に主どうぞ憐れんで助けて下さい。

12月14日(水) ローマ12:9-15 共に喜び、共に泣く

9 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、10 兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。11 怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。12 希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。13 聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。14 あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。15 喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。あなたがたの敵が飢えていたら食べさせ、乾いていたら飲ませよ。など、私たちには目を見張るような驚きの数々です。到底自分の力では出来そうも無いですが、「主がそう仰るのでしたら・・・。」と祈りつつ御言葉に従うことが、たとえ荒野の様であっても勝利の主の平和をいただき、穏やかに過ごせる秘訣なのですね。又主よ、私たちが共に泣く者だけでなく、共に心から喜べる者へと日々創り変えて下さいますように。

12月15日(木) 詩篇34：2～11 共に主をたたえよ

2 どのようなときも、わたしは主をたたえ わたしの口は絶えることなく賛美を歌う。

3 わたしの魂は主を賛美する。

貧しい人よ、それを聞いて喜び祝え。

4 わたしと共に主をたたえよ。

ひとつになって御名をあがめよう。

5 わたしは主に求め

主は答えてくださった。

脅かすものから常に救い出してくださいました。

6 主を仰ぎ見る人は光と輝き

辱めに顔を伏せることはない。

7 この貧しい人が呼び求める声を主は聞き

苦難から常に救ってくださいました。

8 主の使いはその周りに陣を敷き

主を畏れる人を守り助けてくださいました。

9 味わい、見よ、主の恵み深さを。

いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。

10 主の聖なる人々よ、主を畏れ敬え。

主を畏れる人には何も欠けることがい。

11 若獅子は獲物がなくて飢えても

主に求める人には良い物の欠けることがない。

ここでは私たちが何かが出来から、良い事をしたから主は目をかけ慈しんで下さるとは書いておらず、34 編だけでも「主を賛美する人」「主を仰ぎ見る人」「主を呼び求める人」「主を畏れる人」「主の慈しみを待ち望む人」「主に従う人」「打ち砕かれた心」「悔いる霊」を主は喜ばれ御目を注いで下さるとあります。大元はシンプルで良いのです。主の御許に身を寄せ、その恵み深さを味わい、一方的な慈愛で満ちた主と共に心から褒めたたえましょう。

12月16日(金) 詩編25：1-5 わたしの魂は仰ぎ望む

1【ダビデの詩。】

主よ、わたしの魂はあなたを仰ぎ望み

2わたしの神よ、あなたに依り頼みます。

どうか、わたしが恥を受けることのないように
敵が誇ることのないようにしてください。

3あなたに望みをおく者はだれも

決して恥を受けることはありません。

いたずらに人を欺く者が恥を受けるのです。

4主よ、あなたの道をわたしに示し

あなたに従う道を教えてください。

5あなたのまことにわたしを導いてください。

教えてください

あなたはわたしを救ってくださる神。

絶えることなくあなたに望みをおいています。

詩人はあざ笑う敵を目の前に置きながら、神さまに対する信頼と望みに立ってお祈りを始め、その信頼が今まで主が教えて下さった啓示に相応しいものであるようにお導きをお祈りします。

「あなたはわたしを救って下さる神。絶えることなくあなたに望みを置いています。」と主に絶えることなく揺るがない信頼を寄せる詩人をお手本として、共に人生の海の嵐を主に信頼して導かれ、乗り越えて参りましょう。

12月17日(土) サムエル上2：1-10 ハンナの祈り

1ハンナは祈って言った。

「主にあってわたしの心は喜び

主にあってわたしは角を高く上げる。

わたしは敵に対して口を大きく開き

御救いを喜び祝う。

2聖なる方は主のみ。

あなたと並ぶ者はだれもない。

岩と頼むのはわたしたちの神のみ。

3驕り高ぶるな、高ぶって語るな。

思い上がった言葉を口にしてはならない。

主は何事も知っておられる神

人の行いが正されずに済むであろうか。

4 勇士の弓は折られるが
よろめく者は力を帯びる。

5 食べ飽きている者はパンのために雇われ
飢えている者は再び飢えることがない。
子のない女は七人の子を産み
多くの子をもつ女は衰える。

6 主は命を絶ち、また命を与え
陰府に下し、また引き上げてくださる。

7 主は貧しくし、また富ませ
低くし、また高めてくださる。

8 弱い者を塵の中から立ち上がらせ
貧しい者を芥の中から高く上げ
高貴な者と共に座に着かせ
栄光の座を嗣業としてお与えになる。
大地のもろもろの柱は主のもの
主は世界をそれらの上に据えられた。

9 主の慈しみに生きる者の足を主は守り
主に逆らう者を闇の沈黙に落とされる。
人は力によって勝つのではない。

10 主は逆らう者を打ち砕き
天から彼らに雷鳴をとどろかされる。
主は地の果てまで裁きを及ぼし
王に力を与え
油注がれた者の角を高く上げられる。

ハンナは苦しみ食事も取れず、悩み嘆いて主に祈り涙しました。「男の子をお授け下さい。お捧げします。」口だけを動かし余りに長いお祈り故、酔った人と間違われる程です。どん底まで落ちたハンナでしたが、念願の男の子を授かり乳離れした時に、約束通り子供の生涯を主に委ね、喜びの賛美を捧げます。非常な苦しみ、辛さが喜びに変わる逆転の信仰告白に思いが溢れています。苦しみの時も遠慮せずに主に訴えること、お答えに感謝を捧げることの大切さを教えられます。

12月18日(日) ルカ1:39-56 マリアとエリサベト

39 そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。 40 そして、ザカリアの家に入ってエリサベトに挨拶した。 41 マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がお

どった。エリサベトは聖霊に満たされて、42 声高らかに言った。「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。43 わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。44 あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。45 主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。」

46 そこで、マリアは言った。

「わたしの魂は主をあがめ、
47 わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。

48 身分の低い、この主のはしためにも
目を留めてくださったからです。

今から後、いつの世の人も
わたしを幸いな者と言うでしょう、

49 力ある方が、
わたしに偉大なことをなさいましたから。

その御名は尊く、
50 その憐れみは代々に限りなく、

主を畏れる者に及びます。
51 主はその腕で力を振るい、

思い上がる者を打ち散らし、
52 権力ある者をその座から引き降ろし、

身分の低い者を高く上げ、
53 飢えた人を良い物で満たし、

富める者を空腹のまま追い返されます。
54 その僕イスラエルを受け入れて、

憐れみをお忘れになりません、
55 わたしたちの先祖におっしゃったとおり、

アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」
56 マリアは、三か月ほどエリサベトのところに滞在してから、自分の家に帰った。

マリアは天使に「恵まれた方。あなたは身籠もって男の子を産む」と言われ青天の霹靂です！
「聖霊によって生まれる子は神の子と呼ばれる。」に更なる驚きです。「お言葉どおりになりますように。」と答えられた素直なマリアと、彼女から挨拶を受け、踊る様な胎動と聖霊に満たされて救い主の誕生を悟り「主が仰ったことは必ず実現すると信じた方はなんと幸いです。」と告白したエリザベトから、年齢に関係なく、信仰深く柔和な女性達をイエス様のお誕生に際して、主が用いられた事実が迫って来ます。

(担当 : K.W.)